

令和6・7年度 鹿児島県教育委員会指定「魅力ある学校づくりプロジェクト」研究協力校
令和7年度 沖永良部秋季教育研究大会
和泊町立和泊小学校研究公開

【研究主題】

「学校が好き」という児童を育てる「魅力ある学校づくり」の研究
～授業改善と特別活動の充実を通して～



はじめに

校長 池田 裕一郎

本日は和泊小学校の「魅力ある学校づくりプロジェクト」に関する研究公開、並びに沖永良部秋季教育研究大会に御参加いただき、誠にありがとうございます。

本校では、授業に内在化した生徒指導の4つの視点を重視し、発達支持的生徒指導を意識した授業を実践してまいりました。これにより、児童が安心して学び、自己肯定感を高める環境を整えております。

主体的で対話的な授業や個別最適な授業、SEL（社会性と情動の学習）の8つのスキルを取り入れた教育プログラムを通じて、児童の社会性や感情の発達を支援しています。その結果、「学校が楽しい」と強く肯定する児童の割合が令和5年度3学期の55%から、令和7年度の1学期には61%に増加しました。また、授業に主体的に取り組む児童の割合も、35%から55%に向上しました。

これらの成果は、教職員一同が試行錯誤を重ね、失敗を恐れずに取り組んできた結果です。今後も地域の皆様との連携を深め、児童が地域社会の一員として成長していく姿を見守っていただけることを願っております。

本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

令和7年10月1日（水）

和泊町立和泊小学校

研究の構想と視点

【学校教育目標】

夢をもち、確かな学力を身に付け、心豊かにたくましく生きる 和泊小の子供を育てる。

【研究主題】

「学校が好き」という児童を育てる「魅力ある学校づくり」の研究
～授業改善と特別活動の充実を通して～

本校の状況（研究開始時）

令和5年度児童に対する意識調査の結果（強肯定の割合）

質問項目	1学期	2学期	3学期
学校が楽しい	60.9%	55.4%	55.2%
みんなで何かするのは楽しい	71.7%	75.9%	73.1%
授業に主体的に取り組んでいる	42.8%	36.4%	35.4%
授業がよく分かる	49.5%	45.5%	47.3%

「魅力ある学校づくり」における意識調査

- ① 左の4項目について、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」、「どちらかといえば当てはまらない」、「当てはまらない」の4件法で実施。
- ② 「当てはまる」（強肯定）の割合に着目し、それを増加・維持させるためには何が必要か協議し、PDCAサイクルで変容を捉えていく。

研究の仮説

授業に内在化した生徒指導

- ① 自己存在感の感受への配慮
- ② 共感的な人間関係の育成
- ③ 自己決定の場の提供
- ④ 安全・安心な風土の醸成

学ぶ意欲の向上
豊かな他者との関わり

SEL-8Sプログラムを取り入れた授業

「学校における8つの社会的能力育成のための社会性と情動の学習」

- ① 自己への気づき
- ② 他者への気づき
- ③ 自己のコントロール
- ④ 対人関係
- ⑤ 責任ある意思決定
- ⑥ 生活上の問題防止のスキル
- ⑦ 人生の重要事態に対処する能力
- ⑧ 積極的・貢献的な奉仕活動

社会的・情緒的な成長

授業改善

魅力ある学校づくり

特別活動の充実

個別最適な学び

- ① 学習課題の活用
- ② 学習方法や形態の自己決定
- ③ ヒントカードの活用
- ④ 練習問題の選択（ラスト10分）

自己の学びが認められているという実感

委員会活動の見直し

「学校をよりよくしようプロジェクト」による児童が主体的に関われる場や役割の新設

自己有用感の高まり
居場所の実感

目指す児童の姿

自己の価値を実感し、意欲的に学びに向かう児童	日々の授業や学校生活を通して、自己の存在が尊重されていると実感しながら、学習や学校生活に前向きに取り組む児童
友達と共に学び合い、よりよい人間関係を築こうとする児童	友達や教職員との関わりの中で、互いの考えを尊重し、思いやりのある関係を築きながら、安心して学ぶことができる児童
自らの役割や責任を自覚し、主体的に学校生活に参画する児童	授業や委員会活動などに主体的に関わり、「自分は学級、学校の一員として役に立っている」と自信をもって行動できる児童

研究の実際 (1) 授業改善

授業に内在化した生徒指導を意識した取組

授業に内在化した生徒指導の4つの視点（自己存在感の感受への配慮、共感的な人間関係の育成、自己決定の場の提供、安全・安心な風土の醸成）を意識した取組を図1のように定めて、全ての授業で実践を行ってきた。

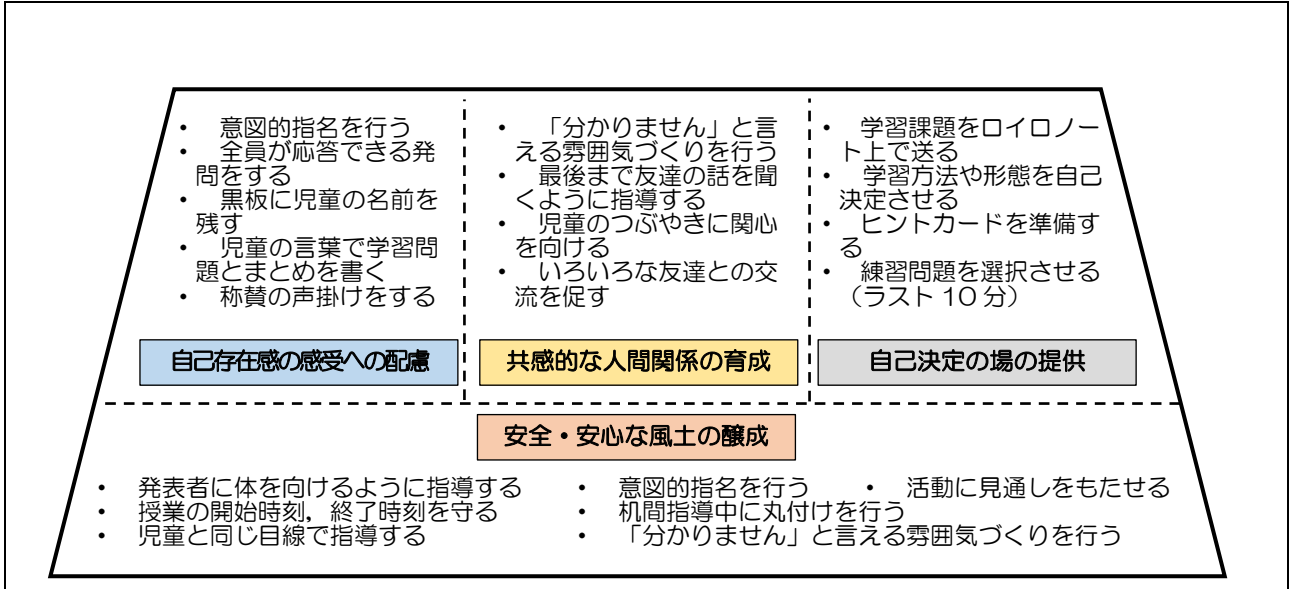


図1 授業に内在化した生徒指導を意識した取組



自己存在感の感受への配慮
安全・安心な風土の醸成

なるほど、分かりやすいね（称賛の声掛け、児童と同じ目線での指導）。



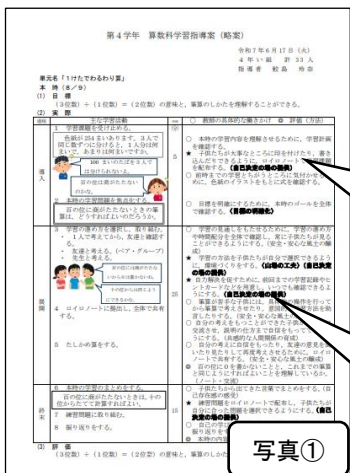
共感的な人間関係の育成

Aさんの考えも分かりやすいね(友達の話を最後まで聞く指導)。



自己決定の場の提供

ここまで分かった。続きはヒントを見てみよう（ヒントカードの準備）。



指導案には、特に意識して指導する項目について明記し(写真①), 授業研究の際は児童の姿や反応に着目しながら、教師の手立ての良かった点や改善が必要な点、解決策を中心に話し合った(写真②)。

★ 子供たちが大事なところに印を付いたり、書き込んだりできるように、ロイロノートで学習課題を配布する(自己決定の場の提供)。

★ 自力解決を促すために、前回までの学習記録やヒントカードなどを用意し、いつでも確認できるようにする(自己決定の場の提供)。



個別最適な学び

個別最適な学びは、大きく「指導の個別化」と「学習の個性化」に分けられるが、特に算数科では、「指導の個別化」に着目し、以下の取組を行ってきた。

(1) 学習課題の活用

学習課題をロイロノートで配布することにより、問題文に下線を引いたり図に書き込みをしたりと、課題解決の際に配布された学習課題を活用するか自己決定できるようにした。

(2) 学習方法や形態の自己決定

一人で取り組んだり（写真③）、友達と取り組んだり（写真④）と、学習課題に取り組む際の形態を自己決定できるようにした。また、児童が常に思考・判断・表現し続けられるように、自力解決を終えた児童から、時間を区切らずに順次学び合いの活動へと移り変わっていく授業展開とした（図2）。

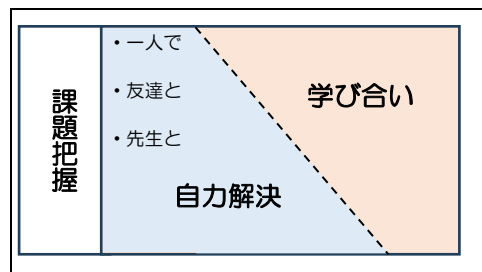


図2 授業における課題解決過程のイメージ図



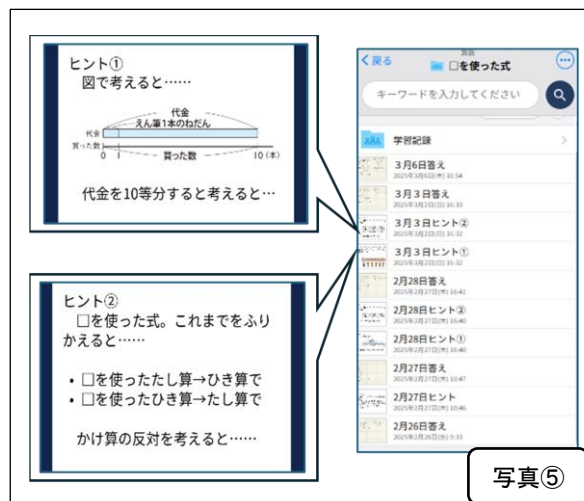
写真③



写真④

(3) ヒントカードの活用

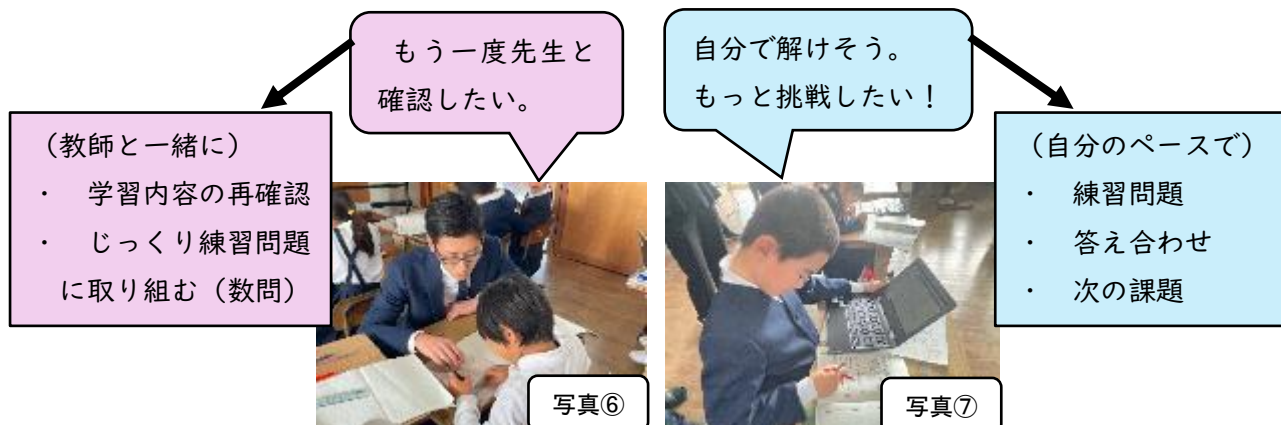
児童の主体的な学びを支える工夫として、ロイロノート上に段階ごとのヒントカード（写真⑤）を準備した。ヒントカードを使うかどうかや、どのヒントカードを使うかは、児童が自分の理解度に応じて自己決定できるようにした。



写真⑤

(4) 練習問題の選択（ラスト10分）

個別最適な学びとして、児童一人一人に合った学習を保障することができるように、授業のラスト10分間を習熟度に応じた学びの場とし、児童が自分の理解度に応じて学び方を自己決定して取り組むことができるようにした。数問をじっくり解くグループ（写真⑥）と自分のペースでどんどん解き進めるグループ（写真⑦）に分かれ、教師は理解や定着が不十分な児童に対して、重点的に指導・支援を行った。



研究の実際 (2) 特別活動の充実

SEL-8Sプログラム (Social and Emotional Learning of 8Abilities at School)

- (1) ソーシャル・エモーショナル・ラーニング (SEL: 社会性と情動の学習) の実践
 自己の捉え方と他者の関わり方を基盤として、社会性(対人関係)に関するスキル、態度、価値観を身に付ける学習であり、社会性と情動に関する心理教育プログラムの総称(生徒指導提要 p.26)
- (2) 学習単元の決定
 社会的能力を育むための学習単元を、実態調査を基に「C 伝える」に決定した。

【学習単元】 A: 基本的な生活習慣 B: 自己・他者への気づき、聞く C: 伝える D: 関係づくり E: ストレスマネジメント F: 問題防止 G: 環境変化への対処 H: ボランティア

社会的能力	実態調査 (R6.9実施)		社会的能力と学習単元の関連							
	児童	職員	A	B	C	D	E	F	G	H
自己への気づき	3.17	2.00		○			○		○	
他者への気づき	3.08	2.40		○						○
自己のコントロール	3.06	2.20	○		○	○	○	○		
対人関係	3.16	2.40	○	○	○	○		○		
責任ある意思決定	2.92	3.00			○			○	○	
生活上の問題防止のスキル	3.70	3.20						○		
人生の重要事態に対処する能力	2.91	2.40							○	
積極的・貢献的な奉仕活動	3.21	3.40								○

(3) 実際

学期1回の学級活動の時間と、月2回程度の朝の時間(SELタイム)に、既存の指導案を基にしながら、本校の実態に即した形で導入やロールプレイ(写真⑧)、ワークシートの内容に工夫(写真⑨)を加えて実施した。



写真⑧

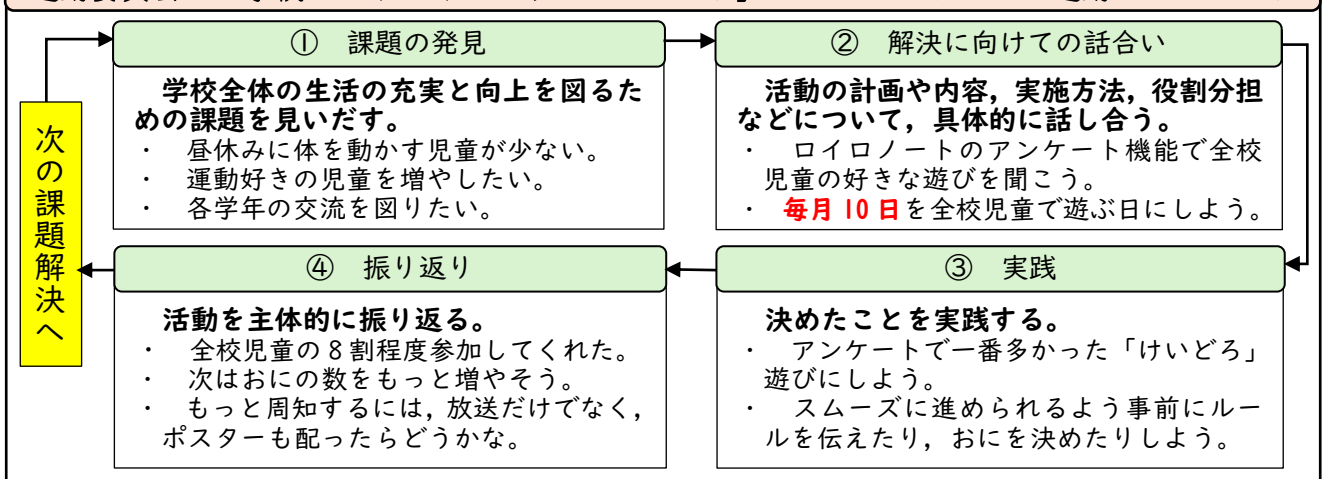


写真⑨

委員会活動の見直し

「学校をよりよくしようプロジェクト」と題して、児童が自ら学校における課題を見付け、改善のアイデアを出し合い、実践するなどの取組を行った。

運動委員会の「学校をよりよくしようプロジェクト」⇒10 ショーンアゲアゲ運動プロジェクト



研究の成果と課題

児童に対する意識調査の結果（強肯定の割合）

質問項目	R5 3学期	R7 1学期	p値
学校が楽しい	55.2%	60.8%	.26
みんなで何かするのは楽しい	73.1%	77.2%	.34
授業に主体的に取り組んでいる	35.4%	54.5%	<.05
授業がよく分かる	47.3%	50.8%	.49

※ p値：差の有意性を示す統計的な数値

標準学力検査NRT結果

	R6	R7
学校全体	47.3	49.0

児童の社会的能力の認識結果

社会的能力	R6 9月	R7 7月	p値
自己への気付き	3.17	3.40	<.05
他者への気付き	3.08	3.33	<.05
自己のコントロール	3.06	3.07	.81
対人関係	3.16	3.41	<.05
責任ある意思決定	2.92	3.18	<.05
生活上の問題防止のスキル	3.70	3.76	.17
人生の重要事態に対処する能力	2.91	3.19	<.05
積極的・貢献的な奉仕活動	3.21	3.49	<.05

※ p値：差の有意性を示す統計的な数値

「C 伝える」と関連

成果と考察

「学校が楽しい」と感じている児童の割合が約5%増加した。

▶ 授業改善や各委員会活動の取組により、学校生活への肯定的意識が高まったのではないかな。

「授業に主体的に取り組んでいる」と感じている児童の割合が35.4%から54.5%へ増加した。

▶ 算数科を中心とした授業改善が児童の主体性の向上につながったのではないかな。

「対人関係」、「責任ある意思決定」の項目で0.2ポイント以上上昇し、有意差が見られた。

▶ SEL-8Sプログラムの実践を通して人間関係づくりの力が伸びてきたのではないかな。

課題と解決策

「学校が楽しい」と感じている児童の割合が約60%に留まった。

▶ 委員会活動だけでなく係活動の見直しも行き、児童の自己有用感につなげる。

「授業がよく分かる」の項目については、他の項目に比べ伸びが小さかった（理解の実感に課題がある。）。

▶ ヒントカード等の更なる工夫とともに、算数科以外でも個別最適な学びの実現を目指す。

「自己のコントロール」の項目の向上が見られず、感情の調整や衝動の抑制に困り感が見られた。

▶ 「C 伝える」だけでなく「D 関係づくり」のSEL-8Sプログラムにも取り組んでいく。

【研究同人】

校長 池田 裕一郎
 教頭 竹中 寛之
 教諭 伯川 めぐみ
 教諭 西 雄大
 教諭 水本 沙織
 教諭 鮫島 玲奈

教諭 本村 諒子
 教諭 新門 佳奈
 教諭 松久保 陽史
 教諭 榮 有佳子
 教諭 大納 正子
 教諭 勝目 竜太郎
 教諭 末廣 渉

教諭 三原 理沙
 養護教諭 藤原 真琴
 栄養教諭 森園 允子
 事務主査 盛山 智彦
 司書補 盛山 菜穂子
 学校主事 田中 美保子
 学習支援員 山下 美佳代

学習支援員 宗 千尋
 学習支援員 島田 慶子
 学習支援員 池田 由里香
 初任指導 松山 淳
 後補充 村山 きよ美
 S C 外山 千草
 S S W 今榮 歌菜子

【旧同人】

教頭 柴田 浩
 教諭 貴島 武徳
 教諭 前 依津美

教諭 宮田 哲生
 栄養教諭 折田 佳奈
 学校主事 森 美奈子

学習支援員 笠間 友
 すくすく 村山 きよ美
 後補充 松崎 沙織